

感染症名	病原体	潜伏期間	感染経路	症 状	診 断	治療方法	予防方法	感染期間	登園基準	集団保育において留意すべき事項
結核	結核菌 (Mycobacterium tuberculosis)	感染後1～2か月でツベルクリン反応が陽転し、その後3か月以降、一生涯にわたり約30%の既感染者に発病がみられる。発病する人の50%は、感染後2年以内に発病する。	空気感染 感染源は咳痰の塗抹検査で結核菌陽性の肺結核患者	肺結核では咳、痰、発熱で初発し、おおむね2週間以上遷延する。乳幼児では重症結核（粟粒結核、結核性髄膜炎）になる可能性がある。	喀痰（あるいは胃液）の塗抹、培養検査、ツベルクリン反応	抗結核薬	BCGワクチン	咳痰の塗抹検査が陽性の間	医師により感染のおそれなくなると認められるまで（3日連続検痰の塗抹検査結果が3回とも陰性になるまで）	<ul style="list-style-type: none"> <li>成人結核患者（家人が多い）から感染する危険性が高い。</li> <li>1人でも発生したら保健所、嘱託医等と協議する。</li> <li>排菌がなければ集団生活を制限する必要はない。</li> </ul>
腸管出血性大腸菌感染症	腸管出血性大腸菌（ベロ毒素を産生する大腸菌）O157、O26等	3～8日	経口感染 生肉（特に牛肉）、水、生牛乳、野菜等を介して経口感染する。患者や保菌者の便からの二次感染もある。	激しい腹痛、頻回の水様便、さらに血便。発熱は軽度 <合併症>溶血性尿毒症候群、脳症（3歳以下での発症が多い。）	便培養	脱水の治療。 抗菌薬療法	食品の十分な加熱、手洗いの徹底	便中に菌を排泄している間	症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間あけて連続2回の検便によっても陰性が確認されたもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>プールで集団発生が起こることがある。低年齢児の簡易プールには十分注意する（塩素消毒基準を厳守する）。</li> <li>患者発生時には速やかに保健所に届け、保健所の指示に従い消毒を徹底する。</li> </ul>